

肥料・土壌改良資材におけるJAS規格適合資材について

近年、差別化商材として有機やオーガニックと表示された食品や衣料品、化粧品がスーパーや百貨店等で目にするようになって来た。然しながら、2011年度における農林水産省の調べでは日本の耕作面積の0.21%(9,529ha)が有機農産物認定栽培農場となっており全体の耕地面積からすればまだ発展途上といつてよいのが現状だ。現在、日本農林規格いわゆるJASマークが付けられるものは4つとなっている(有機農産物、有機農産物加工食品、有機畜産物、有機畜産加工食品)。

農林水産省は平成23年度に作成された有機農産物のJAS規格使用適合資材の有効期限が本年3月末をもって期限切れを迎えた事を受けてホームページ上より適合資材リストの表示が削除されているが、平成24年以降は一般社団法人有機JAS資材評価協議会が作成しており農林水産省のホームページからジャンプするようになっている。本制度は2000年より開始されており13年経過しているが、誤使用による事故が後を絶たないようだ。事故のケースとして圧倒的に多い事例は使用者の理解不足による使用誤認事故のようだが、使用者が適合資材可否の内容を調べきれないといったケースや各登録認定機関による判断の相違から発生してしまう不公平感があるといった信用・整備上の不備が指摘されている。現在登録されている認定資材は430資材となっているが、実際に流通されている適合可能な資材の数として3,000資材以上、または使用者が自己責任の元で作成して使用している資材を含めると6,000資材以上あるのではないかとされている。登録が進まない理由として、事業者や登録認定機関・資材業者が資材適合性評価を受けるために多くの時間と労力がかかっている事が大きな要因となっているようだ。使用者が安心して使用出来る資材のリスト作成が急務となっているのが現状だ。下表はJAS規格に規定されている有機農産物の適合資材の中で使用前に確かめておきたい資材の事前確認例を紹介する。また、現在は1年に1回定期的に使用資材リストに掲載されている資材については確認作業があり誤使用防止を行っているが、過去に資材業者が原材料を変更したにも関わらず届けていないケースや資材業者の認識不足により実は使用不可であったという事を知らないで使用者が使用してしまい認定を取り消されたケースもあるようだ。使用前には必ず認定機関に相談することが誤使用を避ける唯一の方法である事は間違いない。

使用までに確かめておきたい注意が必要な資材での使用可否例

資材名	使用前に事前確認する事項について
ニームオイル添加の土壌改良資材	農薬としての効果を期待しているものが多いため、疑義資材、無登録農薬として使用禁止
植物抽出液(いわゆる漢方農薬)	防除効果を有する事が明らかでない事 化学合成農薬の混入の有無
コーンスターチ	発酵した食品廃棄物で読む場合は可。亜硫酸浸漬の工程がないものは食品工場由来でも可
コーンステーパーリカー	食品ではないため禁止
オガコ	建築廃材由来のものは禁止
廢糖蜜(製糖産業由来、パン酵母の発酵廢液)	使用可
泥炭	肥料・ブルーベリーの定植・育苗用土のみ可
卵の殻	使用可(洗浄時での次亜塩素酸ソーダを使用したものも含める)
魚かす 魚粉・フィッシュソリュブル	抗酸化材・エトキシソリュブルは禁止
おから(未発酵)	遺伝子組み換えの使用有無は問わない 消泡材使用物は不可
輸入小麦 ふすま	使用可
フェザーミール	酸処理物は不可
乾燥菌体肥料	凝集材使用物は不可
血粉(乾血)	凝集材、酸・アルカリ処理物は不可
蒸製皮革粉	タンニンなめしで加工した化学処理のないもののみ可
パーク堆肥	腐熟促進材の確認及び尿素 硫安使用物は不可 木材は建築廃材由来のものは禁止

(次ページへ続く)

使用までに確かめておきたい注意が必要な資材での使用可否例

資材名	使用前に事前確認する事項について
硫黄	使用可
生石灰(苦土生石灰含む)	天然物質に由来する物
消石灰	上記生石灰に由来物であれば可
硫酸加里苦土	塩化加里とキーズライトを化学反応させた混合物は禁止
硫酸苦土	天然鉱石由来物でかつ分離精製過程において静電気分離法で作られたキーズライトは可
微量元素(マンガン・ほう素・鉄・銅・亜鉛・モリブデン及び塩素)	化学合成資材でも可
フェロモントラップ	食品・食品添加物は誘引材として使用可
塩化加里 塩化ナトリウム	天然由来またはイオン交換膜法で作られたもののみ可
塩化カルシウム	化学合成でも可
食酢	化学合成でも可(合成酢でも可)ただし遺伝子組み換え原材料由来は不可
肥料の造粒材 固結防止材	天然物質・化学処理を行っていない事 ただし、リグニン及びリグニンスルホン酸塩に限り使用可

原則:原材料は製造工程の分かる書類を入手することが必要 また使用可能資材リストの公表により有機JAS認定取得、認定維持においても活用が期待される

東北トモ工営農現地研修会開催

去る9月3～4日、宮城県にて第39回東北トモ工営農現地研修会が開催され、総勢26名が参加した。今回の現地圃場研修は地元のフクダ物産㈱の協力のもと、東日本大震災による津波被害を受けた塩害田の復田を視察することが出来た。改めて感謝申し上げます。視察した圃場は、名取市閑上(ゆりあげ)の農業生産法人と仙台市七郷藤田の生産者の計3圃場。



3年振りの作付けとなった各圃場では、トモ工化成を施用した試験区と、他社品を施用した対照区とで生育の違いを確認する目的の試験を行った。作付品種は「ひとめぼれ」と「まなむすめ」。両区において明確な違いは確認出来ない状況であったが、穂が出揃った稲姿を目の当たりにし、稲の強さ、生産者の一生懸命な姿勢に感服した。

昨年9月から表土を5cm削り取ることや、苦土石灰を散布することで除塩を進めてきたが、それまで瓦礫や特に自動車の撤去が大変であったという話に、計り知れない苦勞が窺えた。2年間作付けが出来なかったにも関わらず、ヒエやホタルイ、クログアイといった水田雑草や紋枯病の発病も見られ、逆の意味でこれ等の生命力の強さも感じた。各圃場の収穫は今月下旬の予定とのこと。来年の作付けに向け結果が楽しみである。

視察した圃場周辺は防波堤建設や道路の嵩上げ工事など、復旧作業の為に重機やダンプカーが精力的に稼働している一方で、未だ基礎だけが残り雑草が生茂る住宅跡地や作付けされていない荒れた農地を見ると、改めて“頑張れ！東北”という気持ちを、参加者夫々が思い抱いた研修会となった。

GARDEX2013 出展のお知らせ

来る10月9～11日に開催される、GARDEX2013に当社の展示ブースが出展致します。ご来場の際は、是非お立ち寄り下さい。

開催詳細：<http://www.gardex.jp/>

開催場所：幕張メッセ(千葉県)

【訂正のお知らせ】当紙415号に掲載しましたJA概算金に、一部誤りがございました。徳島コシヒカリ 正 14,000、誤 15,400になります。お詫びして訂正致します。

実りの秋を迎えておりますが、台風18号の襲来により全国的に被害が報告されておりますこと、改めてお見舞い申し上げます。まだ台風の北上が懸念されますが、読者の皆様におかれましては、いち早いご回復と実り良き収穫を迎えられますよう、祈念致します。編集事務局：南部、助川

電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp URL <http://www.mcagri.jp>

